



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

株式会社さつまホーム企画室
地球やりなおし計画
事務局

日本にいと何でも食べられて幸せ・・・でも・・・

みなさんこんにちは、さつまホームの瀧川です。10月になって、自転車通勤族の私には快適な季節になりました。夏場には朝でも暑くて会社に着くころには汗だくになったりしていましたが、体が良く動かし食欲も湧きます。先日会社のイベントで稲刈りをしに丹波篠山へ行ってきました。実りの秋、食欲の秋が来た実感がします。それに因んで今回は、私たちの食生活とエコロジーとの関係に焦点を当て、「本当に地球に優しい食生活とはどうあるべきなのか」を考えてみます。



「エコ生活」を検証する・第2回 ～家庭の生ごみから堆肥を作ってはいけない?!～

食品はリサイクルできるか？

答えを最初に申し上げますと、「できない」です。適切な期限までに消費し損ねた食品や食べ残しは、もう腐るしかありません。(それを無理やり「リユース」していた食品会社や料亭もありましたが・・・)食品のリサイクルとは、少なくとも食べ残しをそのまま食品として再利用することではないのです。

堆肥は食品リサイクルではないのか？

堆肥(たいひ)とは、有機物を微生物によって完全に分解した肥料のことです。学校や、一般家庭から出る生ゴミを「堆肥」にして畑に撒けば、残飯をリサイクルしたと言えるでしょうか？これも残念ながら答えは「ほとんど言えない」ようです。植物は必要な栄養分を水と大気から自分で作り出す力を持っていて、堆肥の中の栄養分は無関係です。植物が堆肥から得るものは、DNAを作るためのリンや窒素、代謝などに利用するカリなどで、その量は微々たるもの。堆肥の、いわゆる「リサイクル率」は1%未満といわれています。都市部の住宅地を標的に、電気式の「生ゴミ処理機」が数万円で売られていて、その購入に対して

補助を行っている自治体までありますが、これだけの初期投資と分別の手間と電気代をかける価値はまずないでしょう。

家庭の生ゴミに潜む危険な物質

例えば、電池の中には水銀やカドミウムが入っているものがあります。危険なので電気店などに回収ボックスが設置されていますが、回収率は20%程度。つまり残りの80%は家庭からゴミとして捨てられているということです。他にも、蛍光灯には水銀や鉛、おもちゃにも塗料や鉛などの有害物質が含まれています。こんなとんでもないものが混じらないとも限りません。



更には、加工食品にどっぷりと浸かった私たちが出す生ゴミは、食品そのものにも何が入っているかわからないのです。「無添加」と銘打っている食品であっても、法律には多くの抜け穴があって(または用意してあって)、表示義務のない添加物がたくさん入っているからです。

生ゴミを堆肥として使う歴史を持つヨーロッパの国々でも、堆肥の原料として、家庭の生ゴミは使わないそうです。使うのは例えば養鶏場から出る生ゴミなど、生産工程が決まっている、つまり何が混じるかがわかっているものに限っています。

豊かさが生み出す傲慢と歪み

では、どうすればよいのでしょうか？おそらく最良の答えは、「食べ残しを減らす」ことです。家庭だけでなく、レストランの残飯やスーパーなどの賞味期限切れ食品も、あらゆる所から出る無駄を減らす事です。食糧自給率が先進国最低の日本は、食糧の60%を輸入に頼り、その半分を食わずに捨てています。世界一流の経済力があればこそできることですが、こんな奇怪なことをしている国は他にありません。

世界中の味覚が、食材が、いつでも手に入る贅沢と引き換えに、私たちは環境に負荷をかけ、餓えに苦しむ人がいることを忘れてしまっています。これが日本人の美德に照らして正しいことでしょうか？この状況が当たり前になっている背景には、やはりここにも産業界と政界の「都合」が垣間見えるような気がします。



トピック

家庭用太陽発電補助、4年ぶり復活

経済産業省、09年度予算の概算要求で家庭用太陽光発電設備の導入補助金を4年ぶりに復活させる方針を決定。ピーク時を上回る238億円を要求。05年度に補助金を打ち切って以来累計導入量世界一の座をドイツに奪われていたが「福田ビジョン」の世界一奪還宣言に対応した。

「みんなの自転車」無料貸し出し実験

名古屋市。車の利用を抑えて二酸化炭素を減らそうと、自転車を無料で市民に貸し出し、利用状況を調べる本格的な実験、9/21～23日実施。「名(めい)チャリ」と命名。将来の本格的な導入を目指す。

情報リンク

『偽善エコロジー』武田邦彦著 冬幻舎新書
現代の「エコ生活」の有効性と、行政や企業活動の裏事情まで含めた実態をデータに基づいて検証しています。今回の「地球暮らし」はこの本を参考に執筆しています。

お知らせ バックナンバーをプレゼント

多数のお申込みありがとうございます。引き続き「地球暮らし」全バックナンバープレゼント実施中です。右記のEメールかFAXまでお申込み下さい。

編集後記 エコキャップ運動ご協力御礼！

今年7月にこの編集後記に「エコキャップ運動」の話を書きましたら、以来読者の皆様から沢山のご協力をいただきました。現在当社で建築中のお客様の小さなお嬢さんが集めて来てくれたりして、感謝感激です。本当にありがとうございます。これからもお願いします。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com
FAX : 06-6855-7700
郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-12-11
㈱さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます

